

道路整備を意識した商店街の賑わいの定量化とその測定

大林道路株式会社 正会員 ○嶋崎明代

大林道路株式会社 正会員 光谷修平

一般社団法人まちの魅力づくり研究室 堀 温子

一般社団法人まちの魅力づくり研究室 堀 繁

1. 目的

「賑わい」とは活気があって商売や取引が繁盛する状態をいう。まちが賑わうと経済活動が活発となり地域が潤う。少子高齢化により地方都市等の消滅が危惧されるまちの「賑わい」は重要である、そのためには近隣住民や観光客などの交流人口を増やすことで創出するしかない。

まちは道と沿道で出来ているが、中央の道が重要である。沿道は民間の各店舗で操作は困難なのに対し、道路は行政が一気に整備でき、影響大きい。道路は人や車の交通を支える重要なインフラである。多くの人が魅力を感じて足を運び、買い物や飲食を愉しめる空間は道路の重要な機能となる。さらに近年では、例えば「ほこみち」のように道路をまちに賑わい空間として捉え、多角的に活用しようとする制度・試みが進められている。我々が商店街に出かければ「賑わい」の有無を誰しも同様に評価すると考えられる（写真-1,2 参照）。



写真-1 賑わいの少ない商店街

写真-2 賑わいのある商店街

この定性的な評価を定量化するには、①歩いている人の数、②取引される金額を指標とする方法が考えられるが②は道路技術者が得やすい情報ではない。①は活気と直結する。そこで筆者らは、道路整備とその賑い創出効果を検討する前提として、「まちの賑わいの定量化」の方法を実践し検討した。実践については道路空間の機能として「賑わい」が最も求められるのは商店街である。商店街は全国に12,000以上あるといわれており、多くの商店街が「賑わい」を失いその活性化

を求めているそこで東京の商店街で実際に計測し、その結果から「賑わい度」の定量化の測定方法の妥当性、問題点、改善点について検証した。

2. 測定方法の提案

1) 定量化

「賑わいの定量化」を人の数で測定する目的とする。その値を仮に「賑わい度」と定義する。

2) 撮影方法

撮影は1人で撮って評価することとした。測定方法は以下の要件を満たすものとした。

- ・人が感じる活気をそのまま指標化する。
- ・道路の占有を要さない。

そこで、

- ・使用するカメラの焦点距離は、肉眼に近い画角範囲となる標準レンズ状態に設定する。
- ・歩行可能な場所（歩道あるいは自動車が殆ど通らず歩行者が多い状態の車道）で撮影する。
- ・歩行者の視点となるよう、立ち止まった状態（地面から160 cm程度）で撮影するものとした。

3) 撮影する時間帯

住宅街と駅を結ぶ道路における朝の通勤通学時間帯の人通りは購買等に直結せず、ここにいう「賑わい」とは異質なものと考える。夕方の帰宅時間帯は、朝と比べて購買に結び付くと考えられるものの、単に「通行のついで」であり道路空間の魅力とは関わり合いが小さいと考える。そこで撮影する時間帯は原則10時～15時の範囲内で設定するものとした。

4) 撮影位置

道路空間の状態を満遍なく把握するには、道路の中央からの撮影が好ましいと考えられる。しかし、遮蔽物（人・車）を避けて撮影することは重要。そこで本件では撮影位置を道路の左、中、右の3箇所とした。

キーワード 賑わい,写真,測定方法

連絡先 〒101-8228 東京都千代田区神田猿樂町 2-8-8 大林道路株式会社 技術部 tel 03-3295-8855

3. 測定方法の改善

前述の方法で実際に商店街で行った測定結果から定量化その方法の妥当性, 問題点, 改善点について整理した。

1) 定量化

現地で撮影した際に店員や客引き等は客とならない人は区別がついた。そこでバギーに乗った子供も含めて「賑わい度」には数えないこととした。また写った人数を数える際に、遮蔽物の影から僅かに出ている人を拡大して探すかどうかで評価が変わることが判った。

2) 撮影方法

立ち止まってそのまま撮影するだけで比較的容易だが、撮影者の直前に人が近いと遮蔽されて写る人数が減ってしまうという問題点が分かった。また、縦断勾配が大きい場合には上側から撮れば評価範囲が広く(写真-3)、下側からは狭くなり、カーブの手前では狭くはなるが数えやすくなる場合もある(写真-4)ことが判った。そこで以下に考慮して撮影することとした。

- a. 人が正面に近いところに見え遮蔽物となった場合は時間をおいて撮影する
- b. 縦断勾配がある場合は測定箇所を避け撮影する
- c. カーブしている測定箇所は避け撮影する



写真-3 坂の上側から



写真-4 カーブの手前から

3) 撮影する時間帯

駅や学校等との位置関係が異なる8か所の商店街で10時～12時の状態を観察した。それぞれ通勤通学中と思われる人は見当たらなかった。一方で10時に開店している小売店が多い商店街と12時近くになってから開店する小売店が多い商店街があり、賑わい度の変化と関係する可能性が高いと推定された。

3) 撮影位置

道路の中、右、左の順に時をなるべく早く移動して撮影した。しかし、同時に撮影する訳ではないため歩行者の移動の影響が大きく(写真-5, 6 参照)、位置を変えることによる利点は少ないと思われた。

また人気店舗の前等、局部的に人が集まっている場

合の取り扱いに検討を要することが判った。



写真-5 中央から撮影



写真-6 左側から撮影

4. 結果と考察

今回の測定法で写真から読み取った「賑わい度」(人の数)は「現地での実感」(定性的)とある程度の妥当性を得た。定量化の妥当性, 測定法の妥当性, 問題点, 課題など, 気をつけなければならない点が分かったが、「定量化」が可能と分かった。

そこで今回の検証で抽出された問題点, 課題を解決する方法を考案し、調査箇所を増やしてその妥当性を検証していく必要がある。そして最終的には、以下の用途に使える評価法として確立させる所存である

- a. 同様なタイミングでの「賑わい度」でいろいろな商店街の状況を比較し、自街が目標とすべき(繁盛している)商店街を選べるようにする。
- b. 定期的な「賑わい度」の変化から、自街の状態を診断し、対策の要否やその方法を検討する。
- c. 曜日や時間を変えた「賑わい度」を測定することで、客の特徴を把握し、営業時間や定休日を検討する。
- d. 位置を変えた「賑わい度」から人の流れを検証し、これを改善する手段を導入する。

筆者らは、道路舗装の路面を工夫することで道路空間の雰囲気を変えて人の流れを呼び寄せ、ベンチ等を工夫して人を滞留させる方法の研究にも取り組んでいる。商店街の「賑わい」を診断し、これらの研究成果で盛り上げられれば幸甚である。

- 1) 堀 繁：景観からの道づくりー基礎から学ぶ道路景観の理論と実践
堀繁講話集 大型本 - 2008.